

設楽の城砦めぐり

じゆんかい

はまじょう
— 浜城編 —



浜城全景を望む

城址は碁盤石山の南西に伸びる尾根筋が、名倉地区の中心あたりに迫り出した先端部に築かれた要害の地にある。

東納庫と西納庫を一望できる絶妙の位置にあるこの城は、集落より約二〇〇メートルの山上にあるため、ほとんど手つかずの状態で、当時の遺構が残されている。

約三〇〇平方メートルの本曲輪を中心に、東と西側に帯曲輪と豎堀を築き、北側に大きな空堀と豎堀で防備されている。

名倉奥平氏の本城である寺脇城の詰めの城として知られている。夏焼や中当の城ヶ山の構造や位置関係から推測すると、南北朝時代に情報の連絡をとる繋ぎの城として築かれたものが、戦国時代に奥平氏によって改修されたとも考えられる。

(愛知県文化財保護指導委員)

加藤 博俊